(4)　嘔吐している（はいている）

　嘔吐は小児においてしばしばみられ、小児救急では発熱についで多い症状です。その原因は多彩で年齢によって異なり、生理的と考えられるものから緊急処置が必要なものまで様々です。乳幼児は食べ過ぎ、咳き込み、泣くなどでも簡単に吐くし、いつ乳やゲップに伴う生理的なものもあります。多くは腸管のウイルス感染症によるもので、症状は数日でおさまります。嘔吐した場合の観察のポイントは、何回吐いたか、腹痛・頭痛はあるか、機嫌はどうか、食欲はあるか、下痢はあるか、熱はあるかなどです。１回吐いても機嫌がよくなるようならあわてることはありません。

医療機関救急受診のポイント

（救急外来を受診しましょう）

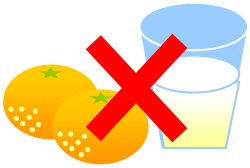
- 生後3か月未満の乳児で哺乳のたびに勢いよく嘔吐をくりかえす
- 嘔吐と下痢を同時に頻回繰り返す
- 顔色が悪く、おなかがはってぐったりしている
- 意識がぼんやりしている
- 半日ぐらいおしっこが出ていない
- 激しい頭痛や腹痛を伴っている
- まったく水分がとれず、くちびるや舌が乾いている
- 吐いたものに血液や胆汁（緑色）が混ざる
- 血便がでた
- けいれん（ひきつけ）がおこった
- 強く頭やおなかをうった
- 脱腸（だっちょう）（ヘルニア）がもどらない

家庭での対処方法のポイント（Ｑ＆Ａ）

Ｑ１　家で嘔吐したらまずどうするの？

　まず、吐いたものが気管に入らないようにしましょう。寝ている場合は、顔を横に向けてできるだけ早く吐いた物を口から外に出しましょう。
　吐いたものを始末したら、よく手を洗いましょう。
　少し落ち着いたら、１回だけ浣腸してみるのも良いでしょう。便秘はこれだけですっきりしますし、下痢や血便の有無もわかります。救急受診する場合は便を持参してください。

Ｑ２ 嘔吐したあとは何を与えればいいの？



吐き気が強いときは飲食するとかえって吐くので、1～2時間は何も与えない方がいいでしょう。嘔吐の間隔が長くなったら、湯冷まし（一度沸かして冷ましたお湯：さ湯）、お茶、子供用のイオン飲料を少しずつ、回数を多めに与えましょう。胃腸を休めるために、吐き気が落ち着くまで固形物は避けたほうがよいでしょう。吐き気が治まったら、消化の良いおかゆやうどんを少し与えましょう。油の多いものや牛乳、ヨーグルトなどの乳製品、炭酸飲料、オレンジなどの柑橘類は与えないでください。

Ｑ３ 脱水症状はどんな症状でわかるの？

唇や舌が乾いている、顔色が悪い、皮膚の張りがない、眼が落ちくぼんでトロンとしている、尿が半日以上出ない、泣いても涙が出ないなどです。

Ｑ４ スポーツドリンクはだめなの？

スポーツドリンクは子供用のイオン飲料に比べて糖分が多く、電解質（ナトリウム）が少なめのため好ましくありません。

この症状によくみられる代表的な病気は？

- 腸管感染症（ウイルス、細菌）
- 腸重積症（ちょうじゅうせきしょう）
- 消化性潰瘍（胃潰瘍、十二指腸潰瘍）
- 急性虫垂炎（きゅうせいちゅうすいえん）（盲腸）
- 急性膵炎（きゅうせいすいえん）
- ソケイヘルニア嵌頓（かんとん）（脱腸が出たまま戻らない状態）
- 髄膜炎（ずいまくえん）（ウイルス性又は細菌性）
- 片頭痛
- 腹部外傷
- 頭部打撲
- 周期性嘔吐症（しゅうきせいおうとしょう）